

# 衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会ニュース

平成 20.4.10 第 169 回国会第 3 号

4 月 10 日、第 3 回の委員会が開かれました。

## 1 沖縄及び北方問題に関する件

- ・高村外務大臣、岸田国務大臣（沖縄及び北方対策担当大臣）、小野寺外務副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 仲村 正治君（自民）

- ・国内の米軍基地の 75%が集中する沖縄県において、その存在が振興、発展の障害要因になっていると考えるが、岸田沖縄北方担当大臣及び高村外務大臣の見解を伺う。
- ・旧軍飛行場用地は国有地であると判断できる売買契約書等は有るのか。
- ・強制収用された旧軍飛行場用地問題に関し県は団体補償で解決したいとしているが、内閣府はどのように対応するのか。

### 丸谷 佳織君（公明）

- ・岸田沖縄北方担当大臣が考える北方領土返還運動を担う次世代育成の重要性と方向性を伺う。
- ・北方領土に長期滞在が可能となるビザなし交流の方法を考えるべきではないか。
- ・択捉島の旧紗那郵便局と択捉水産会事務所を修理、保存して日口友好のシンボルとする考えに対する高村外務大臣の見解を伺う。

### 市村 浩一郎君（民主）

- ・膠着状態にある北方領土交渉の打開に向けて高村外務大臣はどのような決意を持っているか。
- ・国会議員がビザなし渡航に行きやすい方法を作るべきだと考えるが、高村外務大臣はどのような見解であるか。
- ・在沖海兵隊の一部グアム移転に伴い、日本政府が負担する住宅建設費用は厳しく精査されるべきだが、高村外務大臣はどう考えるか。
- ・政府のさとうきび増産プロジェクトの現状及び宮古島におけるバイオ燃料構想の現状について岸田沖縄北方担当大臣はどのような見解であるか。

### 松木 謙公君（民主）

- ・洞爺湖サミットは、国内外に北方領土問題をアピールする好機だと考えるが、高村外務大臣はどのような見解であるか。
- ・昭和 44 年以降、北方領土問題に関する国民の意識調査を行っていないことについて岸田沖縄北方担当大臣はどのような見解か。
- ・北方領土教育の現状及び反省点について内閣府に伺う。

### 赤嶺 政賢君（共産）

- ・環境省は泡瀬干潟の価値をどのように認識し、本年 10 月に開催されるラムサール条約締約国会議で同干潟を登録湿地として提案する考えはあるのか。
- ・同干潟に生息する絶滅危惧種であるトカゲハゼ保全に関する専門家の意見を聞かず工事を進める内閣府の姿勢に対して岸田沖縄北方担当大臣はどう考えるか。
- ・特別自由貿易地域のパスを建設するため浚渫された土壌の処分場として泡瀬の埋め立て事業が行われているが、特別自由貿易地域の分譲済の土地はどれだけか。